

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1174300481		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成29年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 9 月 11 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居されている皆様の一人ひとりの思い、状況を把握しご本人や御家族が望まれる暮らしを送って頂けるように職員が日々話し合い、よりよい生活のため支援しております。皆様にとって、居心地の良い空間づくりを目指し、明るくゆったりとした雰囲気の施設にしたいと思っております。まず、温かい食事の提供と笑顔で楽しい生活をのため支援を続けております。皆様が安心して安全に生活できるよう努めています。AEDを設置し緊急時にも対応出来るよう研修行い備えております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

一人ひとりを大切に、その人に合った対応をする事を大切にしている。それにより利用者が、生活の「主人公」になれるような支援をしている。折り込みチラシを見て、食べたい物を自分で購入した利用者はいつも以上に良く召し上がった。書道のボランティアが来るのを楽しみにしている利用者は、年賀状やフロアのメニューを書く事で、事業所内での役割を持つ事が出来ている。また、残存機能の維持にも努めていて、お花紙を小さく丸めて作る季節に合わせた作品作りは、利用者が意欲的に取り組み、指先を使う機会と出来上がりの楽しみも得ている。最後に、地域の方々との関係が良好である。挨拶を交わす間柄で、野菜のおすそ分けをいただいたり、「何かあれば言ってください」と声かけしてもらい、避難訓練や運営推進会議にも積極的に参加してもらえる協力関係がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常に掲げてあります。いつも確認することで、改善することや反省点など気づけるよう努めております。	玄関に理念を掲示している。管理者は、一人ひとりを大切に、その人に合った支援を実践をする為に、職員会議で具体的な事例により注意喚起をし、職員からも介護の中で困難な事が有った時は確認する機会が有る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは良い関係を継続しています。畑で採れた野菜を頂いて料理に使用して皆様にもお出して美味しく頂いております。	自治会に加入し、利用者の状態により夏祭りに参加した。近隣の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂く関係になっている。詩吟、踊り、傾聴ボランティアが来所し、書道パフォーマンスの時は、興味を持って見ていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の方だけでなく、随時見学を受け入れています。ボランティアの方々ともグループホームについてお話をさせていただき理解して頂ける様努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、近隣の方、ご家族に通知し参加をお願いしております。会議の場で色々なご意見ご要望をお聞きし今後に生かしていきたいよう努力しております。	家族、地域包括支援センター職員、自治会長、近隣住民や会社の方々が参加される。開催する日時は固定せず、土日、催し物、食事会と一緒に等柔軟に決めている。防災についての情報交換を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方とは電話や窓口でよくお話をさせて頂いています。運営推進会議には包括支援センターの方が必ず出席されています。報告は市にも提出しご意見を聞かせて頂いています。	電話や事故報告、書類等の提出で市町村に出向き、担当者と良好な関係が築かれている。オレンジカフェへ参加をした。事業所の実情やサービスの取り組みにも理解が有り、継続的に気にかけてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に近いこともあり、玄関の施錠はご家族の了解のもと行っております。身体拘束については一切行うことなくケアを実施しています。また、理解を深めるため施設内研修を実施しております。	1年に1回研修をするが、初めて介護をする職員には随時行っている。言葉による拘束についてはその都度「何故いけないのか」と説明を行い、気を付けている。安全面から玄関の施錠はしているが、利用者の希望に応じて外に出る事が出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法については、研修行い学んでおります。職員会議の場でも話し合い行い確認しています。新しい職員が在職しているため十分に理解できるようにしていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を正しく理解している職員は限られています。制度を活用されている方が身近にいないこともあり、研修を通して理解を深めていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくりと時間をかけて、理解して頂ける様説明おこなっております。質問等にも解りやすく丁寧な説明を心掛けています。納得していただけるよう対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際には、日ごろの様子など報告させていただいています。また、ご家族のご要望等お聞きし出来る限り沿っていただけるよう職員間でも話し合っています。	面会や電話連絡時、メール等により家族の意見要望を伺っている。利用者は事務室に話に来る事もある。事業所での生活を家族に伝えるために日常の様子を担当者が記入し、写真と共に家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット毎に職員会議実施し、自由に意見を交換できるようにしています。管理者は意見を代表者に伝える役目を担っています。	各ユニットの会議時に、意見を聞く。勤務年数の長い職員が多く、コミュニケーションが取り易く、随時話ができる関係が出来ている。業務の勤務時間帯や行事の内容について意見が有り、反映させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与アップ実施行い職員もやる気を持って勤務しています。資格習得の費用も協力体制をとっています。また、外部の研修についても費用負担しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修行い、知識の向上に努めております。経験の浅い職員には丁寧な指導や的確なアドバイスをして充実したケアを実施できるよう話し合いをもって行っています。離職することなく勤務してもらえ職場を作っていきたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会員として研修会等に参加しております。近隣のグループホームの職員の方にも運営推進会議参加していただくこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には情報を頂き、ご家族、ご本人とお会いしてお話をさせて頂いております。皆様のお気持ちをよくお聞きすることで信頼関係を築いていきたいと思っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を軽減して頂ける様、お話をお聞きし質問等には丁寧に解り易く説明させて頂いております。望まれるケアに少しでも近づけるよう努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズに応えられるよう状況の把握に努め、適切な支援を提供できるよう努めております。必要な時には他のサービスも紹介させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況に合わせた対応をしてご本人の望まれる生活を送れるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、暮らしの様子や体調などを月次として写真と一緒に送付しています。面会時や電話とうども変化やご本人の要望などお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会では知人や昔の集まりの仲間のかたも訪問されております。病院等も昔からのかかりつけ医に通院されている方もいらっしゃいます。	友人の訪問や家族の許可を得て友人と花見に行く利用者がいる。以前利用していた床屋やかかりつけ医、墓参りに家族と外出する支援をしている。友人の自宅に行きたいという要望に職員と共に外出した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの方の個性や思いを把握し、入居者間の円滑な関係を継続し維持できるよう全職員が心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との連携に努め、入院されてもお見舞いに伺い状況の把握に努めご家族の不安や心配をお聞きして支援おこなっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方の思いや望まれていることに気づけるよう支援しています。言葉に出せない思いにも気づいていけるよう心掛けています。またその方に合った対応をしています。重度の方おりますので十分に考慮しています。	言葉での表現が難しい利用者に対して、普段の生活の観察から原因を探ろうとし、家族との話し合いや職員会議で本人が楽に暮らせるように検討している。フロア毎の申し送りノートで、情報の共有をしている。	利用者の日常生活や生活歴の中から意向や希望を汲み取り、更なるその人らしい生活の支援を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでの状況や生活歴を把握し、職員間で情報共有しています。より良い暮らしをして頂くため話し合いを行い支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣やリズムを大切にしてい急激な環境の変化の無いよう配慮しています。出来る限りご本人の望まれる生活が送れるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺い、状況にあったケアを実施するため職員間でケアカンファレンスを行い意見やアイデアを出し合い介護計画を作成しております。	半年毎に見直しを行う。職員がアセスメント表を記入し、家族、利用者の意見を取り入れて作成する。歩行練習に意欲が出るよう、表に好きなシールを貼る等の意見が出た。生活経過表で実施状況の確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録、業務日誌、チェック表等毎日記録し変化に気づけるよう情報を共有しています。申し送りを通して変化や体調について報告を行いケアについても話し合いしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりのニーズの把握と状況に沿った対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪あり皆様と一緒に話や習字等されています。行事には演奏会を開催し外出できない方も楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診を受けています。日ごろの状態や体調不良など報告し指示を頂いております。医師の指示により他科を受診することもあります。いつも相談に乗って下さいます。	入居時にかかりつけ医を選択出来る。月2回の往診時には看護師、薬剤師が同行し、指示や助言がもらえる。夜間はオンコール体制となっている。通院は家族対応が基本だが、説明が必要な時は、職員が同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが看護師の配置があり、個々の状態の把握して頂きながら、医療的処置等実施してもらっています。また、適切なアドバイス等して頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供行い、看護師や相談員と連携し適切な治療を受けていただき早期退院に向け相談支援をご家族と共に行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針については入居時に文書と口頭でご家族に説明行い了承を頂いております。ご家族やご本人の意向に沿えるよう出来る限りの対応に努めております。	指針が有り、入居時に書面にて説明を行う。入院時や状態に応じてその都度家族と話し合いを持つ。退院前に病院で話し合いを持ち、その後職員と共有している。利用者家族の思いに応える様に取り組んでいる。事業所での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の修了者が多く在籍しています。AEDの設置もあり、使用方法等研修で行っております。実際に使用したケースもありました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと消防訓練実施しています。昼間、夜間と想定を変え職員全員が同じように対応できることを目標としております。近隣の方にもご協力をお願いしています。	消防署から事業所の特性に合わせた、指示や助言がもらえる。職員の入社時は必ず説明をして参加している。訓練時には近隣の参加が有り、協力体制が出来ている。連絡網、マニュアルや備蓄品の用意が有る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	原則入浴は一人ずつ入って頂いております。同姓介助ご希望の方も対応しております。排泄介助もさりげない声掛けかけし実施しております。	1年に1度、声かけなどを認知症のケア研修で行っている。呼び方は普段から注意喚起をしている。排泄の等のプライバシーの確保に対しては、個々の状態に合わせて対応し、職員会議でその都度説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話には耳を傾けお聞きするよう気をつけています。痛い、暑い、寒いなども言葉で表現できない方もいらっしゃいます。表情などもよく観察し思いに気づけるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、時間で急ぐことなく入浴や食事をして頂いております。皆様ご自分のペースでレクも参加されています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カット受けられています。ご自分で毎日の衣類を選んできていらっしゃる方もいらっしゃいます。外出の際にはきれいにお化粧される方もいます。男性は髭剃りの支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にとって食事はとても楽しみにされていることです。毎食温かい食事を提供し召し上がっていただいております。個々のニーズにあった食事をお出ししています。	職員が献立を立て、買い物に行く。利用者からの要望に、柔軟に対応できる。半月毎にユニットを替えて調理をしている。身近に音やにおいを感じる事が出来る。家庭菜園で採れた野菜を献立に採りいれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食べやすいメニューを心掛けております。形態も個人に合わせてお出ししています。水分量も記録し適量を飲んで頂くよう工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った方法で口腔ケア実施しています。ご自分で出来ないかたには職員が介助おこなっております。訪問歯科で口腔ケアを受けられている方も数名いらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しその方に合った対応を実施しております。高齢化に伴い立位不可能にてオムツ使用の方もいらっしゃいます。出来る限りトイレ誘導行いトイレでの排泄をして頂くよう支援しています。	排泄チェック表を利用し、個々に合わせた対応をしている。便意の無い利用者にも、一定時間便座に座ってもらい自然排便を促している。パッド使用時は、利用者の身体機能や職員の意見を会議で共有し、開始している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表記録しています。表を確認し個々のパターンにあわせ水分や食事を調整し排便を促しております。また主治医より薬を処方して頂き服用し便秘の改善を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1人ずつ入って頂いております。好みによりゆっくりと入られています。気持ちよく入浴して頂けるよう配慮しております。	排泄チェック表を利用し、個々に合わせた対応をしている。便意の無い利用者にも、一定時間便座に座ってもらい自然排便を促している。パッド使用時は、利用者の身体機能や職員の意見を会議で共有し、開始している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様、自由に居室で過ごされたり、ホールでレクリエーションされたりご自分の思うように生活されております。昼食後お昼寝される方もいらっしゃいます。夜間もご自分のタイミングでやすまれ良眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに薬情ファイルがあり、いつでも確認することができます。体調変化等には協力医や看護師に相談し対応しています。飲み忘れや誤薬ないよう充分注意して服薬介助行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、その方に合った役割を持って頂けるよう支援しています。一緒に仕事をしていただくことで感謝の気持ちをお話しています。得意なことはどんどんして頂くよう声掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化、身体能力の低下により外出の機会が減っております。散歩も車椅子使用の方が多くなりましたが、歩行可能な方は職員と買い物に行かれています。ご家族と外食に出かけられるときは笑顔で出かけられます。	利用者の状態を考慮しながら、少人数で近くの公園や事業所の周りを散歩する。個別で花見に行ったり、利用者の食べたい物を一緒に買いに出かける。利用者の誕生日に外食をし、娘宅に1泊する等、家族と出かけられる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常のお小遣いとして御家族よりお預かりしています。お金は事務所で管理しております。個人の欲しいものの購入に使っていません。ご自分で財布に少しのお金をお持ちの方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等ご本人より要望あれば対応行っております。ご家族の声を聞かれると安心されるようです。年賀状、暑中見舞いなど毎年出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心かけ毎日を送っております。また、安全に生活をして頂ける様に配慮しております。皆様の過ごされるホールは明るくゆったりとした雰囲気になるよう努めています。	天窓からの光の調整によらずの使用や、空気清浄機、加湿器を使い気持ちよく過ごせる配慮がある。廊下の途中にイスを置き、何時でも休む事が出来る。職員と一緒に季節の装飾作りをしたり、事業所で購読をしている新聞を読んだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	温度や湿度に留意し快適に過ごして頂けるように配慮しています。ご自分の好きな場所で過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にご自分の好みのものをもって来られ安全に配置しています。ご自分の居場所と思っ頂ける様支援しております。	馴染みの物を持ってきたり、事業所からの誕生日の色紙を飾っている。利用者の状態に応じて、安全に過ごせる様に家族と相談しながら物や配置を考慮している。テレビゲームや新聞を読んで過ごす方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーとなっており、トイレ、廊下、浴室と十分な広さがあり、手すりも設置され歩行にも安全となっております。ゆったりと生活して頂けると思います。		